

泉

いずみ

―目次―

表紙 「報恩講団参」

百折不撓

野呂大悟

充実の団参

野呂美道

奇跡のバトンリレー

野呂美道

続 コウノトリ物語

野呂美道

最強の動物・クマムシ

野呂美道

新連載「それでも人生には意味がある④」
勝田茅生

掲示板・お知らせなど

*付録 ハザードだより
真宗の生活



今年また 生かされ参る 報恩講 野呂博子

2024年もあつという間に年の暮れ。今年も残りあと1か月になりましたね。「師走」と言われる12月。師走とは「師馳す(しはす)」からの由来で、寺院で法要が多く行われる時期であり、僧侶(師)が忙しく駆け回る様子から「師馳月(しはせづき)」と言われ、それが「師走」に転じたとされているようです。ですが、12月が忙しいのは、もちろん僧侶だけではありませんね。何か年末に近づくと、仕事も家庭も、自分自身の心までがそわそわと忙しなさそうに落ち着きがなくなっていくような気がします。

今年はどうな1年だったでしょうか? 1月1日能登半島で大きな地震があり、さらには9月には豪雨による災害と続き、まだまだ、輪島地区などは復興が進んでいない場所も多くあるようです。継続して、私ができる支援を探していこうと思います。羽田空港では大きな飛行機事故もありました。海上保安庁の飛行機の搭乗員は残念ながら亡くなりになりましたが、日本航空の便に搭乗していた乗客全員は無事だったことが思い出されます。パリで開催されたオリンピックや、大谷翔平選手の大活躍や例年にならないほどの猛暑など、少し振り返っただけでも様々なことが起こり、あっという間に過ぎていった1年でありました。

「諸行無常」という言葉があります。この教えは、すべての存在は無常であることを前提としています。自然界のものは全て時間の経過とともに変化していくのと同じく、人間の体や心もまた、

まばたきをするのと同時に、変わり続けております。季節の変わり目や、花が枯れ行く姿を見ると移ろいゆく時間の経過を感じ、無常さを実感することもあるでしょう。

無常と聞くと、悲しみや苦しみを生むものと捉えることも多いかもしれませんが、物事が永遠(常にとどまる事ではない)ではないからこそ、変化を知り、受け入れることで今この瞬間に集中することができなのです。無常を理解することで、「今」が輝き、「今」を大切に生きるための力にもなるでしょう。

過去に執着せず、未来にばかり心が囚われることなく、変化を常として時の流れにこの身をお任せすることで、「今」この瞬間を精一杯努力して生きるエネルギーが育まれていくのでしょうか。

今年も12月31日に除夜の鐘を行います。除夜の鐘を撞きながら、ただ忙しさに追われるだけでなく、一つひとつの出来事に感謝し、今をしっかりと見つめ直す機会とするのはいかがでしょうか?

今年も多くの方がお越しいただけるよう、本堂にて甘酒やぜんざい、お菓子なども準備してお待ちしております。一緒にお寺で年越しはいかがでしょうか。みなさまのお越しし心よりお待ちしております。

除夜の鐘撞き

日時：二〇二四年十二月三十一日(火)

午後十一時四十五分 ～ 午前一時ころまで

場所：安泉寺鐘撞き堂と本堂にて

◆表紙にあるように、今年の団参も好天に恵まれ、参加者は充実した一時を満喫した。

◆能登教務所長の竹原さん（私と旧知）が出迎えてくれた。本山では、能登地震の救援のための物資販売テント村が山門前に開かれ、災害支援の報恩講というイメージが強く押し出されていた。◆安泉寺の参加者は二十三名、昨年と違って、堂内は充分な椅子の座席が用意されていた。もはや、正座での参拝は高齢者にとっては無理だ。末寺がとつくに椅子席になっていくのに、本山は遅れていると思っていた。◆広大な本山の敷地、京都駅から十分ほどで来られるのに、この時期でも本山を訪れる観光客は報恩講時を除いてはほとんどない。他の観光寺院は人でごった返しているのに、もったいない話だと思う。◆修学旅行で訪れる奈良の薬師寺では、生徒向けに僧侶が仏教の教えを面白おかしく説明し、人気があると聞く。親鸞聖人がお念仏の教えを広められ、その後、信者によって建立された本願寺は隆盛を極め、日ごと参詣者が絶えなかったと聞く。最も庶民に開かれているはずの本願寺が、紅葉の時期でも報恩講の時を除いて閑散としていることは悲しい。◆これは末寺の安泉寺でも言えることも知れない。せいぜい自坊にも人が集まってくれような仕掛けを作らねば。◆さて、話題は変わって、教え子のレストランでの昼食について。店は彼が若き時修業した、オランダの食堂というイメージ。ポリウムが半端でない。コースを食べ終わるとおなか一杯になった。貸し切りで、皆さん良く食べ、

良くしゃべった。やはり、おしゃべりが料理の味付けになるというのは間違いない。妻の同年代のおば（あ）ちゃんたちが沢山参加した。近所の気心の知れた門徒さんたちがたまに出かける、いわば出張井戸端会議である。必須アイテムは「食べる・しゃべる・買う」この三つ。本山の閑散さと違って、おば（あ）ちゃん軍団は非常にパワフルである。安泉寺が地域のお寺になっっていることの証拠だ。◆レストランから平等院までは、とところどころに洒落た店があり、そぞろ歩きに絶好の径（こみち）だ。食後の腹ごなしにもなり、抜群の雰囲気だった。小春日和の宇治散策は、きつとりピーターを生むだろう。皆さん、お疲れさまでした。



◆東日本大震災を機に、真宗大谷派名古屋教区の有志により結成された、災害支援ネットワーク「でらボラ名古屋」の定例会のことだ。能登教務所長の竹原氏からお米の支援要請があった。そこで、私は「檀家にコメ農家さんがいるので、聞いてみましょう。」と提案した。◆早速、農家の三輪君に尋ねたら30キロ玄米3袋が提供できるとの事。それを精米し5キロ×18袋に梱包することをお快諾してくれた。◆精米すると少し目減りするが問題なし。この方法は、以前女川の竹の浦（たげな）の鈴木さんと北目さんに新米を送ったノウハウが起きた。故人となった北目さんから「新米と漬物、味噌汁があれば何もいらない、贅沢な食事です。」という礼状をいただいたことを思い出した。



隣寺若院「中野君」



米農家「三輪君」

◆そして、会議の2日後に、隣寺の若院・中野君が七尾の教務所に4度目のボランティアに行くことを私は聞いていた。三輪君と中野君は立田中学の同級生、同じバスケット部で競い合った仲だ。◆思いついたのは、中野君に宅配サービスをお

願いできないかということだ。連絡したところ、快諾してくれた。◆すごいのはその早業リレーだ。三輪君はすぐに精米と梱包を済ませてくれた。そして、驚異的なのはそのお米のお値打ち感。とても紙面では語れない。◆このように、条件がうまく整うと、敏速に支援ができるということが証明された。いろいろな情報を集め、それを応用すれば、世の中に役に立つことが沢山できそうだ。そのためには、とにかく活動すること。失敗を恐れて委縮するよりは、とにかくやってみること。そうすると失敗が生かされて、次にはうまくゆく。◆私は「それはやっても無理。どうせうまくいかないから。」という意見を最も嫌う。やってみなければ分からないじゃん！◆今回は写真にあるように、お米の詰め込みから七尾教務所に届くまで、見事なバトンリレーが成功した。私たちのしていることはほんのささやかなことだけれども、被災者の方々に少しでも寄り添うことができ、この上なく嬉しかった。三輪君、中野君、竹原氏も同様な気持ちだと思う。◆私の得意技、マッチング・コーディネートション。関係者の皆さん、本当にご苦労様でした。心より感謝申し上げます。



無事七尾教務所へ



◆この写真を見てほしい。昨年愛西市にやって来た一羽のコウノトリ。なんと今年には五羽になった。十一月の上旬、安泉寺の近くの蓮田で餌をついばんでいた。◆よほど、この地が気に入っているらしい。豊富で安全な餌を求めて、彼らは本能的にこの地に住み着いた。地元の人々も、あまり大騒ぎをせず、淡々と彼らを見守っている。そういう距離感が彼らにとっても心地いいのだろう。◆さて、私の話は意外な展開を見せる。コウノトリたちは忘れ物をしたと昨年書いた。そう、定番の赤ちゃんを運んでくることを怠っていたのだ。◆ところが、実は彼らはちゃんと赤ちゃんを運んできたのだ！ 時を同じくして中日新聞の尾張版に、輪島から愛西市に移住した家族の記事が掲載された。沢田さんという一家だ。ご夫婦と、四人の子どもが愛西市に住み

ついた。一家は地震で自宅が住めなくなつて、家族で暮らしたいと、友人の不動産屋にお願ひし、愛知県に移住先を求めた。いくつかの場所を見て回り、家族全員一致したのが愛西市ということだった。◆都会でもなく、過疎地でもない、比較的便利な自然豊かな愛西市。一家はそう判断した。私は記事が出ると即座に市役所に行き、沢田さんとの交流を試みた。すぐに連絡が入り、自坊に一家を招待した。◆東日本大震災の時、活動を進める中で、私たちは得難い友人を得た。今は、家族同然の交流をしている方たちも多い。そんなわけで、能登の方たちと交流したいと願つてきた。沢田さん一家はまさに私が望んでいた人たちだった。◆もう皆さんはお分かりだろう。実はコウノトリは沢田さんたちだったのだ、人口減少気味の愛西市に子供を連れてきてくれた。彼らがコウノトリでなくて何であろうか！◆せっかく来てくれた人たちを私たちはあまり過度に扱うことなく、温かく見守り、移住してよかったと言ってもらえるように環境を整えることが大切だと思ふ。時が来たら、ご両親から震災の体験を語ってもらい、地元の防災に生かすことも考えたい。◆沢田一家と面会した愛西市長曰く、「防災に関心がある方とそうでない方とのギャップが大きい。」そうであれば、ぜひ行政が主体となつて、住民の意識の高揚を図つてほしい。私たちもそれを強く願っている。◆沢田コウノトリさんは、素晴らしいカンフル剤を私たちに打ってくれた。感謝！

◆「地球ドラマチック」という番組で、私が日ごろ興味を抱いている動物「クマムシ」を取り上げていたので、皆さんに紹介したい。◆地球上最強の動物と言われるクマムシの驚異的な能力を紹介しよう。①摂氏150度から絶対零度（摂氏マイナス273度）近くまで生きられる。②人が浴びる限界の放射線の1000倍まで耐えられる。③真空状態（宇宙空間）でも死なない。④水分がなくなると、生命活動を停止し、仮死状態（乾眠）になり、十数年もその状態を保つが、一滴の水があれば、甦る。◆このクマムシは世界中のどこにもいる。特に湿気の多い苔の中が住みかだ。体長1ミリにも満たない。◆このクマムシの先祖がカギムシと言われる体長1.5センチほどの動物だ。共通点は足に関節がなく、ものを吸い込んで食べる点だ。（まるで、私が治療を受けた内視鏡みたい）カギムシとの大きな相違点は、うんと小型化したこと。そうすれば、仮死状態から生き返るまでがとて効率的にできるからだ。◆ドイツの炭鉱あとの痩せた土地に最初に住み着いた動物はやはりクマムシだった。移動が速く、ほかの動物にくつついて、ヒッチハイクもできるからだ。◆近年の研究が進んで、なぜクマムシはこのような能力があるのかを解明されつつある。東京大学の国枝教授は、Dsup（ディーサップ）というたんぱく質が、DNAの周りにあり、放射線で傷んだDNAを補修することを突き止めた。だから、人が浴びる限界の1000倍の放射能でも死なない。◆また、

CARS（カーズ）というたんぱく質は水分が抜けるとゲル状（プニョプニョ状態）になり、細胞を分子レベルで保護する。これを応用すると、薬剤の常温での梱包ができ、ワクチンなど低温で運ぶ必要がなくなる。例えて言えば、ワクチンをフリーズドライ状態に加工し、水を加えれば、使用可能になる。◆このような過酷な条件でも遺伝子や細胞を守るたんぱく質の働きがクマムシの驚異的な能力を生み出したと言える。◆将来DsupやCARSを人の細胞に組み込み長期の宇宙旅行にも耐えられることができるかもしれない。すると、人間は人工的な仮死状態を常温で保ち、何年後にプログラムされた水分を与えられて生き返る。◆ほんとうにそんな世の中になるのだろうか？ それを科学の進歩と言っているのだろうか？ 私は小さなクマムシに深い畏敬の念を持った。



第1章「日曜生まれの子」その光と影2

◎流浪の民ユダヤの歴史

◆ヨーロッパでは、中世からすでに反ユダヤ思想がはびこっていました。ユダヤ人がイエス・キリストを処刑して、キリスト教を弾圧した歴史があると考えられています。◆以後、ユダヤ人は国を追われた「流浪の民」となり、安住の地を求めてヨーロッパ中に拡散していきました。◆ユダヤ人がどこかの町に流れ着くと、多くの場合、居住地(ゲットー)を定められ、そこに集まって暮らすことを命じられました。また、他の住民の権利を奪わないように、農民や職人になることを禁じられました。そのせいでユダヤ人は商人か金貸しをするしかなく、「ユダヤ人は守銭奴だ」という偏見も生まれました。◆こうしてユダヤ人は、何世紀にもわたって迫害され、安全な居住地を求めて転々としなければならなかったのです。フランクが子供の頃にも、ユダヤ人に対する差別は根強くありました。◆ユダヤ人であることは、自分では変えられない運命です。しかし、その中で最善を尽くすことが重要だと、彼は幼少期の頃から体得していました。晩年のフランクは、あるインタビューで次のように述懐しています。

(第一次世界大戦中、お使いを頼まれて配給の小麦粉を取りにいったとき、橋の上で) 私と同じ

十二歳ぐらいの乱暴な男の子たちが向こうからやって来て、私を引きとめたんだ。今にも飛びかかりそうな威勢で私を取り囲むと。まず「お前、ユダヤ人か？」と聞いた。自分がそれに対してどう答えたか、まだはつきり覚えてるよ。「そうだよ。だけどそれは僕が人間ではないということじゃないよね？」と言うと、彼らは闘争心をなくしたらしく、何もせずに私を通してくれた。私は、彼らの人間性に訴えて、他の人に対しても人間的にふるまわなければならぬという義務を思い出させたんだ。(02)

Haddon Kingberg, Jr., Das Leben wartet auf Dich: Viktor und Eilly Frankl, Deuticke Verlag, 2002

(続く)



alamy

12月の行事予定

- 大成講 一日(日)
- 当山報恩講 七日(土)～八日(日)
- 別院募金 十二日(木)
- 文芸クラブ例会 十九日(木)
- 写真クラブ例会 二十一日(土)
- 除夜の鐘撞き 三十一日(火)

今月の掲示板

A friend in need is a friend indeed
 困っている時の友人が 本当の友人

◆英語のダジャレです。わずかに変わっていただけで、ことわざができてしまいます。Impossible (不可能)のIとMの間にアポストロフィを入れるだけで、I'm possible (私はできる) に変わるダジャレもあります。

お知らせ

◆安泉寺にお墓のある方は管理料として年末までに二千円をお支払いください

いずみのほとり(老僧筆)

◎十一月の下旬、観光協会の先進地研修で、近江八幡を訪れました。豊臣秀次の開いた城下町に、琵琶湖の水を引き入れた水郷地帯です。愛西市と酷似した水の都と言ってもいいでしょう。◆庄巻は伝馬船によるお堀の水郷巡りです。船頭さんが櫓をこぎ、お話をしながら三十分ほどの船旅を演出してくれました。◆櫓が水をかき分ける音は全くしません。静かでのどかなひとときを満喫しました。◆愛西市の観光船はエンジン付きの強力な船です。でも、ボランティアガイドは迫力ある説明を情熱をもってしてくれます。それはそれで、立派だと思えます。さらに人気が出るのを待っています。

◎毎朝、四時半に起床、五時五十分に鐘を撞きます。先日、寝坊してしまいました。猫が私の耳元で「ニャー」と言ったので目を覚ましたら、何と五時四十五分、飛び起きて鐘を撞き、事なきを得ました。猫は阿弥陀様の使いました。「早う鐘を撞かんかい！」
 ◎ついでに鐘つきの時の情景。撞き終わって石段を下りると、目の前に見事なレモンが少し黄色味を帯びてぶら下がっていました。そのまま上を見上げると、三日月が……

